



理念経営のすすめ

～なぜ経営理念が大切か～

春には桜が咲き、やがて散る。そして、翌年も咲く。しっかりした「見えない根」があるから、栄枯盛衰をくり返す。人々は、「見える花」には心を寄せるが、「見えない根」には余り関心を持たない。企業の栄枯盛衰もこれと同じ。見えるものは「経営成果」であり、見えないものは「経営の心」。経営成果は「陽」であり、経営の心は「陰」にあたる。

なにがとも、「陰」が充満すればこそ、「陽」は実を結ぶ。

見える経営資産 = 陽

見えない経営資産 = 陰

経営資源 ↔ 経営成果

経営の心 ↔ 企業文化、風土、価値観

経営の心とは、「経営理念」であり、それによって醸成される企業文化、経営風土です。

- ・ ビジナリカンパニーは、「利益は最大の目的ではない。むしろ、利益を越えた基本的な価値観や目的といった経営理念を大切にしている」
- ・ 松下幸之助氏曰く、「事業経営を通じて経営理念の大切さを感じる。私自身、経営理念を持った結果、非常に信念的に強固になり、経営に魂が入ったようになった」

今日、ほとんどの企業に経営理念がある。それは、飾り物になっていないでしょうか。

1. 何のために、経営理念を定めているのか？
2. 経営理念には何が書かれているか？ また、その言葉はなぜ、使っているのか？
3. 経営理念は社員に理解され、日々の仕事の中に実践されているか？

一つの国や企業の盛衰は、人間の精神にかかっている。企業文化というソフト面が、人と組織を活性化し、長期的な経営業績に非常に大きな影響を与える。

企業の成長発展を願うならば、経営理念とは何なのか、を改めて見直すことが大切です。そして、社員教育の根幹に、何よりも優先して、「経営理念の勉強」を置くことが極めて肝要です。



上田 勝 うえだ まさる

松下電器出身、営業本部および本社経営監査部等を経て、松下流通研究所、販売研究所 取締役所長を歴任
NPO兵庫経営塾 副理事長

(株)テクノ経営総合研究所 TECコンサルタント

著書『すべての仕事に商いの心を』（碧天社）「マーケティング理論の基本は商家の家訓の中にある」「部下の心をつかむ正しいリーダーシップのあり方」（『ダイヤモンド・セールスマネジャー』に連載）